



学校だより ウルムス

令和2年6月30日

7月号

横浜市立釜利谷南小学校

～友達を思いやり、友達とひびき合う心～

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariyaminami/>

校長 田中 さくら

新しい生活様式

副校長 関口 義和

学校一斉臨時休業が明け、6月より分散登校という形で学校が再開しました。教室は少ない人数ながらも、久しぶりの友達との再会や新しい担任との対面で、不安とこれからの活動への期待が感じられました。学習を進めていくことはもちろんのこと、児童の不安に寄り添いながら指導をしていきます。また、6月後半からは、全員そろって、午前授業で活動が継続しています。休み時間には、校庭で遊ぶ児童や長縄に挑戦するクラスなど、元気な姿が戻ってきました。

さて、神奈川県では海水浴場が設置されないニュースが流れています。そのため、海の事故はもちろん、川での事故など水辺の事故が心配されます。

そこで、今回はライフセーバーでもある私が、6年生の児童に「水辺では自分の身は自分で守ろう」と安全学習を行いました。児童には、海や川での事故は、自然現象の影響や安全配慮の欠如から起きていることを紹介しました。

・離岸流（りがんりゅう）……沖へ向かう流れのこと。

浮くものを身に着けておくこと。流れに逆らわないこと。

・逆潜流（ぎやくせんりゅう）…海の中に向かう流れのこと。

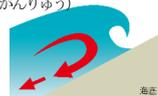
波打ち際でも注意すること。

・沈水（ちんすい）……川などで深みにはまること。

水底の色で見分ける。自分で助けに行かないこと。



離岸流（りがんりゅう）



逆潜流（ぎやくせんりゅう）



児童は、「一人で遊ばない」「浮くものを身に着ける」「海は、118番にかける」など、水辺で遊ぶ時の気を付けることを挙げていました。今年度は、水泳学習が中止となりましたが、短い夏休みに、自分の身は自分で守って、充実した夏休みを過ごしてもらいたいです。

7月からは、通常の授業時間に戻ります。しかしながら、社会で新しい生活様式が求められるのと同じく、学校でも新しい生活様式を実施していきます。毎日の検温の継続や手洗いの確実な実施、換気や消毒など、これらの感染症対策が当たり前となってきます。特に、教育活動においては、手洗いが大変有効となります。そのためには、ハンカチも必要になります。ぜひ、マスク着用と合わせて、ハンカチを身に着けることも児童にお声がけください。

また、欠席連絡も連絡帳のやりとりを避けるため、マチコミメール配信の欠席連絡を利用していきます。これも新しい生活様式に合わせたものになります。慣れるのに時間がかかるかもしれませんが、ご理解をお願いいたします。

釜南学校運営協議会

6月26日（金）に第1回の釜南学校運営協議会を開催しました。協議会の新しい委員として、金沢パークタウン自治会長 蚊戸俊一様、ニューライフ金沢文庫自治会長 青木健様、PTA会長 鎌田有二様、民生・児童委員の佐橋暁子様、同じく民生・児童委員の屋代正樹様を迎えて13名で学校運営についてご意見をいただいています。

今回、第1回目は体育館にて、職員の紹介や学校の運営方針や新しい生活様式について説明させていただきました。



見守り活動も再開



毎月、第4金曜日に、地域の方や関東学院大学のラグビー部の学生さんが、登校時の道路横断の安全や通学路での見守りを行っていただいています。

また、夜8時頃から学区の安全のためにパトロールしてくださる校外パトロールの地域の方々がいらして、皆さん黄色いベストをきてくださっています。子ども達も教職員も黄色いベストを見ると安心します。ありがとうございます。児童の皆さんも、大きな声で朝の挨拶をしていきましょう。